

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和6年6月14日（金） 学習指導Ⅳ 第4学年1組（5年WS） 指導者 樋口 晃

【主 題】 自分に正直に（内容項目A2「正直、誠実」）『ぼくはMVP』（光文書院）

考察	道徳的価値についての理解 (学習活動)	自己の生き方についての考え (学習活動)	道徳性（育成を目指す資質・能力） (道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度)
育成を 目指す 資質 能力	・ 正直に事実を伝えと、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活することで、晴れやかな気持ちで気持ちよく生活ができるという道徳的価値理解、自分に不利な事実を周囲が気付いていない状況において、素直に伝えられずごまかしてしまうことがあるという人間理解、自分に不利な事実を周囲が気付いていない状況において、素直に伝えることができたり、できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であるという他者理解をすること	・ 正直に事実を伝えと、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活することのよさや難しさについて、多様な考えに触れることで、自分の正直に生活することへのよさや課題を知り、よりよい自己の生き方を考えること	・ 正直に事実を伝えと、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活するよさに気付き、正しいことをしたいという思いを高め、正直に生活する道徳的实践意欲と態度を養うこと
子どもの 実態	・ 3年「千ばづる」では、自分を偽らずに、正直に生活することで、晴れやかな気持ちで生活ができるというよさ、よさに気付きつつも、自分を偽ってしまうことがあるという人間の弱さ、自分の間違いを素直に伝えることができたり、できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であることを学習してきた。	・ 3年「千ばづる」では、自己の生活経験を基に、自分を偽らずに、正直に生活することのよさや難しさについて、友達や教師と話し合いながら、自分事として考えてきた。	・ 失敗や間違いがあったときに、自分の立場を守ろうとしたり、怒られたくないという気持ちが先行してしまったりして、失敗や間違いを素直に認められなかったり、正直に伝えられなかったりすることがある。
価値	・ 正直に事実を伝えと、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活することは大切なことである。なぜなら、自分の気持ちを偽らず正直に生活することで、自分が晴れやかな気持ちになれたり、自分に不利な事実を伝えられなかったことを反省し改めることで、行動したことに対して、嘘偽りなく伝えられるという成長につながったりできるからである。よりよい社会を形成していくためにも、自らの行いに対して、正直に生活していこうとする強い気持ちをもって生活することで、晴れやかな気持ちで生活できるようになることや、自分に不利な事実を伝えられないことがあったとしても、それを反省し、改めることで、より成長し自信をもって生活できるようになることに気付いていく必要がある。しかし、4年生の子どもたちは、自分を含めた周囲が関係する利害関係の有無によって損得を考えたり、周囲のたまにという理由で事実を隠してしまったり、これくらいなら伝えなくても大したことではないと解釈したりするなどして、正直に事実を伝えと、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を伝えなければならないと分かりつつも、素直に伝えられないことがある。そのような子どもたちが、正直に事実を伝えと、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活することのよさや難しさについて考えることで、正直に生活することを自分事として捉え、正直に生活しようとする道徳的实践意欲と態度を養うことができる。		

・ドッジボールをしているときに、ボールが自分をかすめアウトになったと感じた主人公が、そのことに気付かなかった周りの友達からの応援の声におされ、アウトにならないままプレイを続行し、最終的に自分だけが残し逆転勝利を収めた。そして、勝敗が決まった後に、周りの友達からMVPだと称賛され、自分がアウトになっていたであろうことを正直に伝えられなかったことに嫌な気持ちを抱いたという話である。主人公が、友達からMVPだと称賛を受けながらも、自分がアウトになっていたであろうことを正直に伝えられなかったことに対して嫌な気持ちを抱いた姿から、正直に事実を伝え、自分や友達が不利になる状況において、その事実を伝えることができなかったことに関して問題意識をもつことができる。また、主人公や教材の中の友達の心情に着目したり、自己の生活に置き換えたりしながら課題を追究する中で、正直に事実を伝え、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を伝え、正直に生活することで、晴れやかな気持ちで気持ちよく生活ができるようになることに気づき、よりよい自己の生き方を考えることができる。

見方・考え方

正直に事実を伝え、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活することについて、自己との関わりで多面的・多角的に捉え、これからの自己の生き方について考えること。

今後の学習

5年「また来てね」で、誠実さをもって行動することで、前向きに明るく生活できるようになっていくことについて考える学習へと発展していく。

他の教育活動との関連

・正直に事実を伝え、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活しようとするについて
例：林間学校のレクリエーション大会で、自分がルールに対してミスをしたことを周囲が気付いていない状況において、正直に報告できずにごまかしてしまうことについて
ドッジボールで、線を越えてボールを投げてしまったことに気付いていながら、相手にボールを当てられたことに喜び、線を越えていたことを正直に報告できずにごまかしてしまうことについて
忘れ物をしてしまったときに、周囲が気付いていない状況において、正直に報告できずにごまかしてしまうことについて

本時の学習（１／１時間目）

ねらい 正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活する理由について話し合う活動を通して、正直に生活することで、晴れやかな気持ちで気持ちよく生活ができるようになるというよさに気づき、正直に生活しようとする道徳的実践意欲と態度を養う。

評価の視点 正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を素直に伝え、正直に生活することについて、教材における登場人物の心情や状況、自己の生活経験を基に、多面的・多角的に考えたことを発言したり、記述したりしている。 <発言・タブレット>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 - 忘れ物をしたときに、怒られたくなくて、先生に言わずにごまかしたことがあるな。自分以外にも、同じようにごまかしちゃったことがある友達が多くいるんだな。 - 主人公は周りの友達の応援もあって、アウトになったことを正直に言えずにプレイを続けていたな。でも、MVPって言われたときに、嫌な気持ちになっていたな。周りが気付いていなくても、正直にそのことを言うのは理由がありそうだな。（課題意識）	○正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝えることに関する自分の生活経験を想起できるよう「自分に不利な事実を正直に伝えられなかったことや、その理由」について事前に実施したアンケートの結果を提示し、それに対する考えを問いかける。 ○主人公がドッチボールをプレイしていたときの状況や気持ちについて把握し、正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝える理由について問題意識をもてるよう、教材を範読し、自分や友達に不利な事実を、正直に伝えていた人の有無や、そのときの気持ちを問いかける。
学習課題：どうして、周りが気付いていなくても正直に伝えるのだろう	
２ 学習課題の解決に向けて話し合う。 - 周りが気付いていなかったからって、言わなくていいことにはならないよね。だって、嘘つきになっちゃうから。 - 自分の考えだけより、友達と話し合った方が、いろいろな考え方ができたな。この前も、友達の話聞いて立場を変えて考えられたから、自分のこれからの生活をよくしていけそうな考えをもてたんだな。 - 周りに対して嘘つきなだけじゃなくて、正直に言えずプレイを続けてしまった自分が嫌で、嫌な気持ちになったのかもね。 - 周りが気付いていなくても、自分のことはごまかせないし、ちゃんと言えていれば、嫌な気持ちにもならずにいられたよね。正直に言えていなければ、ドッチボールで勝てなかったことよりも、きっと、正直に言えなかった嫌な気持ちの方が、大きいと思うな。 - レクをやっていて、クラスが優勝したときとか、みんな喜んでいるだろうし、そこでミスしたことを言うのはちょっとつらいな。 - 周りが気付いていなくても正直に言った方が自分の気持ちをごまかしていないし、その後も気持ちよく生活していけると思うな。言にくいのも分かるけど、言った方がいいよね。 - 自分に正直になれば、気持ちもすっきりするし、後ろめたさもなく、自信をもって生活していけそうだな。だから、自分や友達にとって不利なことでも正直に言えるのがいいと思うな。（課題を解決した意識） ３ 本時の学習の振り返りをする。 - 状況によっては、正直に言い出せないと思うってしまうこともありそうだし、実際に言えないこともあるかも知れないけど、自分に正直に生活していければ嫌な気持ちにもならなそうだから、そうしていけるといいな。	○正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝える理由に対する考えを明確にできるよう、自分の考えをタブレットに端的に記述するよう促す。 ○「友達の考えにはよさがある」「友達の話を知りたい」という意識を高められるよう、グループでの話し合いの前に「道徳科を学ぶよさ」を提示し、友達と話し合う理由を問いかけたり、前時の話し合いで、話し合う視点をもって話し合っていた姿を価値付けたりする。 ○自己の生き方に関する考えを、より深めたり広げたりできるよう、３～４人のグループを、アンケートへの回答や、日常生活での人間関係を基に、物事に対しての捉え方が多様になるグループを事前に編成しておき、グループで話し合うよう促す。 ○正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝えるよさに気付けるよう、登場人物が、正直に伝えた場合と伝えなかった場合の気持ちや状況について問いかける。 ○正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝えることの難しさに気付けるよう、学校生活において正直に伝えることがクラスに大きな影響を与える場面を具体的な事例として提示し、正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝えることの可否を問いかける。 ○正直に事実を伝えると、自分や友達が不利になる状況においても、その事実を正直に伝えるよさを再度捉え直せるよう、正直に伝えないことの是非を問いかける。 ○本時の学習で話し合ったことを自己の生き方との関わりで考えられるよう、「学習課題に対する答え」と「これからの生き方」という視点で自分の考えを記述し、提出するよう促す。

